



カウンセラーだより

たじま絆保育園 2019.6月号

保護者の皆さま、こんにちは。閃きを大切に、売れに売れた『魔法の言葉』から「親は子の鏡」をお送り致します。そして最後に、ささやかながら、コメント(補足)をさせて頂きたいと思います。どうぞ、ご覧になってください。

私に、魔法をかけて
Disney Princess Rule



「親は子の鏡」と言われる事があります。親を見て、子どもは育ちます。親は子の手本です。逆に、「子は親の鏡」、その子を見れば、その子の親がどのような親なのか、それなりに分かるとも言われています。

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる。
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる。
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる。
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる。
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる。
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる。
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう。
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる。
広い心で接すれば、キレる子にはならない。
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ。
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ。
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる。
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる。
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ。
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る。
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ。
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ。
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ。

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる。

皆さん、いかがでしたか？じんわり心に響いたのではないのでしょうか？とても素敵な詩ですが、いくつか補足をさせて下さい。これまで私は沢山の母親から相談を受けてきましたが、中には「子どもを愛せない自分が憎い」と苦しんでいるお母さま方もお会いしてきました。世間で流布されている「母親だから」という母性に縛られ、締め付けられ、引き裂かれている方が、確かに存在しているのです。しかし、誰も喜んでそうなるものではありません。そうした方には、それなりの理由があるのです。それに、子どもを愛せない親は何も少数派ではありません。母親から家事や仕事の忙しさ、育児の大変さから「子どものために〇〇をしてあげたいがそうもできない」と葛藤している話をよく聞きます。誰も一瞬一瞬はそうした感情を抱いた事があるはずです。ですから、子どもを愛せない親はよっぽど遠いところにいるのではなく、わたしたちの延長線上にいても言えます。こうしたことも含めて親子を理解してあげた方が素敵な人間だな、と思います。そして出来ない自分を責めすぎないで下さい。また、この詩を逆手にとり、「親があんなだから子どもはこうなるのだ」という風には使わないで頂きたいと思います。思いやりを子どもや母親、自分へ分け与えられますように。おしまい。

